姶良市観光開発審議会　会議録

会　議　名	平成30年度第３回姶良市観光開発審議会	
日　時	平成30年11月26日(月)　午後１時30分　開会	
会　場	姶良市役所本庁　本館２階大会議室	
出　席　者	委　員	会長、委員14名
	市職員等	商工観光課長、観光政策係長、観光政策係２名
会　次　第	１．開会 ２．会長あいさつ ３．議事 ４．閉会	
議　題	(１)姶良市観光おもてなし計画の骨子案について (２)その他	
会議結果要旨	(１) 姶良市観光おもてなし計画の骨子案説明 ・骨子案を了承 (２)その他 ・観光協会について協議	
会議経過要旨	(委員) ・前回の審議会での意見やアイデアを振り返ると、次のようなことであった。 ・着地型観光の核をつくる必要がある。一番理想的な場所は重富海岸ではないか。 ・観光協会について、現状の体制では、資金面、人材面でかなり弱い。観光協会の現状として、観光協会の体をなしていないのではないか。自立した観光協会とするための対策が重要である。 ・観光協会の充実を図った上で、観光振興を考えていくことが必要ではないか。 ・重富海岸を中心に外資を入れてダイナミックに開発したらどうか。 ・それぞれの地域にある観光素材をみんなで磨き上げていくことが、観光振興につながる。 ・鹿児島空港と鹿児島市の中間地点であるが、観光客は素通りしているのが現状である。打開策として水陸両用のバスを導入したらどうか。 ・観光振興を経済的な側面でみるのではなく、教育や文化にこそ観光が生きるという考え方が必要である。 ・姶良市民が姶良の良さを知らないことが観光振興のネックになっている。市民への周知が必要である。 ・校区コミュニティのまちづくりプランを策定してい	

会議結果要旨	る。地域に根差した文化を観光振興につなげていくことが必要である。 ・田舎の魅力を活用した観光振興が重要である。 ・前回の審議会の振り返りをすると、観光協会を充実させる必要があるという意見が多かった。 （委員） ・観光には夢が必要ではないか。骨子案は夢を感じることができず、どちらかといえば後ろ向きに感じる内容となっている。 ・スポーツ合宿について、姶良市には良いスポーツ施設が揃っているのに、なぜ姶良市はあまり多くないのか。その理由を観光協会、商工観光課がしっかりと分析することが必要である。 （委員） ・県の観光連盟は、基本的に独立採算で受益者負担として観光業者からの会費収入で運営している。職員は県からの出向や民間からの出向が多く、県の観光事業の実行部隊になって、観光を進めている。姶良市の観光協会も、強化する必要がある。 ・霧島市の龍馬ウォークのように、西郷どんコースなどのウォーキングコースをつくって、市全体が一体となって年に１回実施するなど、団体等の実施者がばらばらに行うのではなく、市全体で取り組むイベントを企画したらどうか。やり続けることが必要である。 ・観光物産館の構想があったが、そのプランの中では、観光案内所機能、物産販売機能をまとめて整備することになっていた。 ・姶良市の立地として、県内企業等の研修場所として最適であると考えている。 ・スポーツ合宿については、宿泊場所がないことが大きなネックである。以前、民間の温泉跡地に宿泊機能をつくるという考えもあったが、施設の老朽化などで難しそうである。 （委員） ・独立した観光協会をつくらなければ、姶良市の観光は成り立たないと考えている。行政の中の観光協会ではなく、行政から分離した形にしなければならない。 ・行政からのある程度の運営経費をもらって、専従の職員を置いて、通信設備を整える程度でいい。市の予算もあるので、この審議会で観光協会の設立が必要であるということを決議した上で、陳情等を行っていく必要があ

会議結果要旨	る。 （委員） ・観光協会の設立のお手伝いを JTB で取り組んでいる。他の自治体の観光協会の実態を整理したものが JTB にあるので、今度紹介する。 （委員） ・観光協会の中で、どのような組織、体制がいいのか、業務内容としてはどのようなことをするかなど、観光協会の在り方について、内部で検討している。 （委員） ・集客力のある観光地と同じような観光協会が必要なのか。姶良市の観光協会はどの程度が最適なのかなど、組織・体制、業務内容などを検討した上で、観光協会の何を充実、強化していくのかを検討すべきではないか。 （委員） ・県外からの観光客に対して、錦江湾のどこから眺めた桜島がきれいかと尋ねたところ、なぎさ公園、重富海岸からの桜島の景色が一番の魅力的であると回答した。これを観光振興に生かさない手はない。 ・観光協会の独立は、そんなに難しくないのではないか。必要であればすぐ作るべきである。 （委員） ・県の観光連盟は、県議会議長が会長を兼任している。姶良市の観光協会もある程度のパワーが必要である。どのような組織体制が望ましいのかを検討する必要がある。 （委員） ・観光振興に対して、来てもらうことばかり考えているが、自分たちが外に行っていないという現状もある。観光客がどのようなことを求めるのかを考えるためには、自分たちが外を見なければならない。 ・観光協会の設立には反対ではないが、観光協会で最終的に目標とすることは何なのか。観光客を多く誘客することか、姶良市の子供たちに夢を持ってもらうことかなど、目標を明確にしなければ観光協会をどのように充実していくのかはわからない。 ・姶良市にいる外国人（28 か国）に話を聞くことからはじめることも一つの方法である。

会議結果要旨	(委員) ・観光協会はボランティアで成り立っている。自助努力ではなかなか姶良市の観光を振興していくことは難しい。 ・姶良市が観光をどういう方向性で振興していくのかによって、観光協会の方向性も変わってくる。 (委員) ・田の神様のイベントを行ったが、600 人の集客があった。小さな取組から徐々に大きくなってきている。このような取組が求められる。いきなり大きな取組を行うと、地域はついていけない。 ・小さなイベントを通じて地域の人の協働、生きがいが生まれた。地域の人が元気になった。 (委員) ・姶良市の WEB サイトは、英語のサイトがない、着地型観光がまとまって見られるサイトがないなどの課題がある。 (委員) ・観光協会の事務所が必要である。連絡がとれる、会議ができる場所、観光に関連する人が集まれる場所、観光案内所があればその一角でもいいと思う。 (事務局) ・観光案内所がない。観光協会（行政内）には、観光地へのアクセス案内の電話があり、職員が対応しているが、月曜から金曜までしか対応できない。 ・観光協会の事務所というより、観光協会員が常駐できる観光案内所が必要であると考えている。
その他特記事項	次回の開催予定日 日時：平成31年２月７日（木）午後１時30分～ 場所：姶良市役所　本館２階大会議室